



7月・8月中、多くの部活が葛南大会やコンクールに出場し、ほとんどの3年生は引退試合となりました。日々の練習の積み重ねにより築いた力、仲間の応援を糧に一人ひとりが持てる力を発揮し、精一杯がんばることができました。ご声援ありがとうございました。



気持ちも新たに2学期のスタートを!

受験生の夏休みが終わり、いよいよ2学期がスタートしました。自分の進路の実現に向けて、家庭での課題・自主勉強にしっかりと取り組むことができたと思います。高校の説明会や体験入学に積極的に参加し、それぞれの高校の様子を肌で感じ、「ぜひ〇〇高校に進学したい!」という思いを強く持った生徒も多かったようです。



穀物が暑さの中で葉を茂らせ、実りの秋を迎えるように…3年生がこの夏の努力の成果を2学期にさらに実感できるよう応援しています。また、2学期は、3年生が今までの経験を生かし、学校の中心となって作り上げる体育祭や合唱コンクールなど大きな行事が控えています。まだまだ暑い日が続きますが、健康な心と体で学習や行事の準備に取り組み、すばらしい2学期を過ごせるように、学校中心の生活のリズムにしっかりと切りかえましょう。

読書感想文や税の作文など、この夏休み中に文章を書いた生徒も多いと思います。少し前になりますが、国語の授業で扱った随筆文を紹介します。

6組 山口 薫くん『サッカーの季節』

夏。夏の日サッカー。ものすごく暑い。暑いけれどサッカーをしたい。サッカーは暑さを忘れるほど楽しいし、僕が唯一真剣になれることだ。夏の日サッカーは時間までも忘れてしまう。特に放課後の練習は格別にリフレッシュできる。時間を忘れ、暑さを忘れ、退屈であった授業の後は足が動きたいと言っているようだ。

秋。秋の日サッカー。秋は心地よい風をあびながらのサッカー。秋の夕暮れを見ながらサッカーをするのは心地よい。また、サッカーは時間を忘れさせ、日がすっかり暮れてあたり一面が見えなくなったところに虫が鳴き始める。そこでまた時間を忘れてしまう。家に帰ってから手を洗い、うがいをした後に母にばれないようにすぐに靴下を脱ぎ、洗濯機に入れる。なぜばれないようにするかというと、汚い靴下で帰ると怒られるから。隠すためである。

冬。冬の日サッカー。『冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず。』冬は早朝の寒い時間からサッカーをするのが良い。早朝からサッカーをし、朝飯には家に帰る。朝飯を食べたらまたサッカーしに行く。また、昼飯には帰ってきて、また、サッカーをしに行く。寒いときほど動く気になるし、動いていないと寒から動き回る。そして、体力づけのための走りも大切だ。走った後のほてった体が冷めてしまう前にボールに触り練習に励む。サッカーを終え、家に帰る。家の中と外では全然気温が違う。家の中はものすごくあたたかい。家に帰ってからすぐに向かう場所は、こたつだ。こたつには、すでに家族が入っていて、僕が入れば家族全員がそろそろ。僕以外の人たちは思っていないと思うのだが家族全員でこたつに入るとより一層絆の分のあたたかさが出てくる。こたつの中に入りながらみかんを食べると格別においしい。こたつは僕からしたらアリ地獄だ。抜け出そうとしても寒くて抜け出せない。まさしくアリ地獄。どうすれば抜け出せるのか。我慢すれば良いとみんな思う。だが、その我慢がものすごく難しい。寒さに勝てない自分の我慢。くやしい。

春。春の日サッカー。春の日サッカーは秋と同じで心地よい。だが、全く同じと言うわけではない。春の心地よさは、桜が散る中、サッカーをすること。まさしく、桜とサッカーをしているのだ。桜はサッカーが上手だ。いとも簡単に僕からボールを奪う。風を使って。

季節。僕らは季節と共に成長していく。十年後、二十年後には、春・夏・秋・冬の過ごし方が変わっているであろう。だから季節と共に成長している。季節もサッカーが好きだろうか? 好きだろう。だってサッカーは楽しいから。絶対そうだ。好きだろう。

